

～風だより～

こうのとりの

第5号
2023.4.1

越前市エコビレッジ交流センター
(公財) 日本鳥類保護連盟福井県支部

早い春の訪れ

日本鳥類保護連盟福井県支部

支部長 林昌尚



今年のツバメ「初見」は三月八日、場所は武生高校近くの豊橋付近でした。車で出かけた際に「もうそろそろかなあ?」と思って立ち寄ってみたところ、いました! それもかなりの数で100羽以上飛んでいます。ふと上空を見ると何やら黒いシルエットが・・・、ハヤブサです。三羽が旋回やホバリングをしながらイワツバメの様子を覗っているようでした。自然界の厳しい食物連鎖の姿でしょうか・・・。

昨年はイワツバメの初見は三月十五日でしたので、約一週間早い出会いでした。今年は春先から例年より暖かい日が続いているので、季節の進みがかかなり早いようです。でも、早いという言葉だけで済ませていいものやら。今後慎重に自然界を見ていく必要があるでしょうね。

通常総会開催

日本鳥類保護連盟福井県支部事務局 野村みゆき

昨年の三月五日、臨時総会にて承認され、福井県支部として再スタートを切ってから一年、「無理をせずのにびりいきましよう」を合言葉に、皆様のご協力のもと活動することができました。何とか今年の三月四日に定期総会を迎えることができたこと、本当に嬉しく思います。



今後の課題は、やはり、会員をどうしたら増やすことができるか、です。口コミでいくしかないのでしょうか。何か広報できるイベント会場があるといいという意見も出ました。

会員の写真展を開催することを一番の目標に、後は昨年と同様、ポチポチと活動していくことで話がまとまりました。

越前市坂口地区のコウノトリ情報



坂口地区のペアは、1月末に2羽とも戻り、2月末ごろから抱卵に入っています
ヒナ誕生を今か今かと首を長くして待っている状態だったのですが、3月31日、吐き戻しを確認したと近所の方から報告が……。今年は何羽巣立つでしょう。

越前市では白山地区でも2ペアが抱卵しています。その内の安養寺町の人工巣塔では、J0132（みやび）とJ0138（たからくん）ペアが、たからくんの死去（昨年8月）により、今年の繁殖は無理と思っていたところ、別のオスがやって来たとの情報が。その個体が、昨年、鯖江市吉川地区で繁殖に成功したJ0169（ほまれくん）だという話まで飛び出しました。J0169（ほまれくん）は、元々平成29年10月に、安養寺町の人工巣塔の下から放鳥された個体なので、土地勘があると言えばそれまでですが、1年でペアを解消して安養寺にやってきたのでしょうか？ 不思議です。鯖江市吉川地区の今年の繁殖はどうなるのでしょうか。次号をお楽しみに。

また、小浜市では一昨年、昨年と順調に繁殖に成功してきて、今年も抱卵中でもうすぐ孵化すると思われていたのに、カラスに狙われて卵を持ち去られてしまいました。何個か残っていることを願います。期待しています。

順調にいくかと思われていた県内での繁殖も、スムーズにいかないです。自然界は思う通りにはいかないことを痛感しています。
(野村)

雪が多い時に戻ってきたので、餌が心配で、もうハラハラでした。



令和5年度エコビレッジ交流センター事業計画

※福井県支部共催事業

月	里山スクール	坂口エコミュージアムウォーク	里やまカフェ
4	里山ピザづくり (15) きれいに撮ろう里山風景 (22)	※里山の春を見つけよう (9)	必要に応じその都度開催
5	アースデイえちぜん (21) 田植え体験 (14) 森の手入れ (28)	イモリを見つけよう (7) ※新緑の里山ウォーク (13)	
6	笹の葉で押し寿司作り (3) ホタルを観よう (16~18) ピオトープづくり (9) 大人ためのホタル講座 (10)	ハッチョウトンボを見つけよう (18)	
7	バイオ炭をつくろう	※里山の夏を見つけよう	
8	さかぐち里山生きもの発見		
9	きれいに撮ろう里山風景 稲刈りをしよう 森の手入れ		
10	ドジョウすくいとどじょうピザづくり	※里山の秋を見つけよう (15)	
11	きれいに撮ろう里山風景 ピオトープの手入れをしよう		
12	しめ飾りづくり (17) 新年を手づくりで迎えましょう (24)		
1	寒餅づくり	※里山の冬を見つけよう	
2	かき餅づくり		
3		※鳥を見つけながら里山ウォーク	

日野川の野鳥

日本鳥類保護連盟福井県支部 須本一郎

日野川をマイフィールドとして40数年来、野鳥を観察しています。鯖江市（一部越前市）の堤防道路を車の窓に望遠鏡を取り付けての観察が主で、時に車を降りての観察です。

現在までに見た鳥は小さいものでは、エナガ、シジュウカラなど、大きいものでは、コハクチョウ、アオサギなど140種になります。

ただし、1年間で見られる鳥は、週3~4回の観察で80種ほど、1日で見られる鳥は2時間ほどの観察で、夏季には10数種、冬季には20種前後になります。

コウノトリは2019年以来、毎年数回1~2羽の飛来があります。

長年観察を続けていると場違い（本来日本では生息していないので、かご抜けと思われるもの）な鳥との出会いもありました。2004年のモモイロペリカン、2004年と2010年のコブハクチョウです。

日野川は四季を通してバードウォッチングが楽しめますが、何と云ってもカモ類の多く見られる冬が一番です。カモ類は現在まで20種を確認しています。

因に今冬2月7日（火）の探鳥結果は、下記の25種です。

コハクチョウ	オカヨシガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	マガモ
カルガモ	ハシビロガモ	オナガガモ	トモエガモ	コガモ
ホシハジロ	ミコアイサ	カワアイサ	カイツブリ	カンムリカイツブリ
カワウ	オオバン	トビ	ノスリ	カワセミ
ハシボソガラス	ムクドリ	ツグミ	スズメ	カワラヒワ

カモ類だけで12種になっています。

今後140種にどのような鳥が加わるか楽しみです。



須本さんから原稿と一緒に、日野川で確認できた140種の野鳥一覧（1978~2023）も届きました。せっかくですので皆様にご紹介したいと思います。

キジ、ヒシクイ、マガン、コブハクチョウ、コハクチョウ、オオハクチョウ、オシドリ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリガモ、マガン、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、トモエガモ、コガモ、オオホシハジロ、ホシハジロ、キンクロムジロ、スズガモ、シノリガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、アカエリカイツブリ、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、コウノトリ、カワウ、モモイロペリカン、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チョウサギ、コサギ、ヘラサギ、クイナ、バン、オオバン、カッコウ、アマツバメ、タゲリ、ケリ、イカルチドリ、コチドリ、メダイチドリ、セイタカシギ、タシギ、チュウシャクシギ、ツルシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、トウネン、ハマシギ、アカエリヒレアシシギ、ミツユビカモメ、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、コアジサシ、アジサシ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、ケアシノスリ、カワセミ、ヤマセミ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、オナガ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツリスガラ 以上です。この後何が加わるのでしょうか。楽しみ！

豊岡研修旅行から思う事

3月、コウノトリ見守り隊や保護連盟福井県支部の方々と1泊2日で豊岡に行きました。豊岡市立コウノトリ文化館の館長さんやコウノトリ育む農法に取り組んでおられる地元農家の方の話を聞きました。無農薬、減農薬の米を作る苦勞、それを他の農家の人達にも分かってもらいながら続けている努力を知りました。

ビオトープや湿地を守っている方々の案内で現場を歩きながら4か所の湿地、田んぼビオトープも見学し、畦の草刈り、獣害対策などの場所も守り、維持していくのは本当に大変な事だと改めて思いました。

守られている水辺にはたくさんの生き物が住んでいて、鳥の声が聴こえ、本来人間もこういう場所に住んでいたはずなのに便利さを優先し、いつの間にかこの場所の事を忘れてしまっているのかな…と、考えてしまいました。

野外コウノトリが300羽を超え、増えてきたのはいいけど環境が整わなければまた数も減り同じ事の繰り返しになってしまうのではないかと。環境汚染、温暖化、食糧不足など課題だらけの世の中で、もう一度自分達の身体に入る食べ物大切さや身の回りの環境の事を考え、みんなで取り組んでいく必要があるんじゃないかと改めて感じた研修旅行でした。

(田川由美)



編集後記

越前市西部地域(坂口・白山地区)は、絶滅危惧種のアベサンショウウオが2000年ごろ発見され、保全活動がスタートした地域です。

春の日差しのお穏やかな日、山奥までモニタリング調査に行ってきました。いた!見つけた時には思わず声が出てしまいます。ウーパールーパーのような可愛い幼生たち。近年、生息場所がイノシシに荒らされ、卵塊や成体がアライグマに食べられ、生息環境が危うくなっています。

世界中でたくさんの生きものが絶滅しかかっている昨今、この地区に生息している希少種は守っていかねばと願います。

(野村)

越前市エコビレッジ交流センター 【住所】 福井県越前市湯谷町 25-25-2
Tel/fax 0778-28-1123 E-mail info@ecovil.jp
URL <http://www.ecovil.jp/>

